



1991.9.22 AM 11:40

乗鞍をのぞむ 奥田修三

佐川事件におもづ

本誌前号（八五号、九二・一一・三〇）で、佐川金権、暴力団癒着事件—戦後最大の政治腐敗事件に対し、会員の皆さんに怒りと批判の声をよせていただきましたようお願いしました。

十四名の方々から寄稿いただきました。お名前の五十音順で掲載させていただきます。

昨年の国会審議で問題が少しも解明されていないのに、強引に幕引をはかろうとしている政府、自民党への監視が一層必要です。

市田忠義

昭電疑惑やロッキード事件など、戦後になって二十件近い疑惑

ない。

事件があるみにてた。しかし、佐川事件のような悪質で規模の大きい例はかつてない。佐川がバラまいた汚れた金は、金丸氏への五億円にとどまるものではない。地方の政治家も含めれば約二百数十人、一千億円にのぼるといわれている。そのなかには首相経験者や現職の閣僚もふくまれており、いつさいの真相があきらかになれば、ソ連崩壊どころか自民党崩壊だ、と心配している自民党関係者もいるほどである。献金先は日本共産党以外の野党にもおよんでおり、彼らも枕を高くしては寝られず、直つて、いまだに議員もや

めない元首相がいる。国民がおこるのは当たり前である。

佐川事件や暴力団疑惑は、どこか遠くでおこった事件では決してない。京都とも深いかかわりがある。奥田代議士は佐川グループの野球大会に、三年連続出席して始球式までやっている。金丸氏への五億円は、閣僚経験のない当選五回以下の竹下派の議員に配られたとされているが、京都でこの条件をみたしているのは野中氏だけである。連日金丸邸を訪れマージヤンでなぐさめたのも野中氏である。

さらに重大なのは、汚れた金で行政がゆがめられただけでなく、知事や大臣、総理大臣のイスまで、佐川の金で買われた疑いがもたれているし、事実上暴力団の力によって自民党総裁、すなわち総理や予算委員長の人事が決められたことである。

アメリカでは、マフィアとならぬかの関係をウワサされただけで、その政治家の政治生命は終りである。ところが日本では「体制の側にあるものは、批判を耐えしる。

暴力団会津小鉄が七四年知事選挙で、民主府政の転覆をねらって永末氏らと動いたことや、西田参議院議員の応援をしたこと、高山会長が創価学会員であり、京都の公明党選対関係者との接触を自ら認めていること、前回知事選挙での皇民党的立候補と選挙活動の突然の中止、京都市長選でも保守系候補に二億円の佐川マネーが流れ、地元自民党代議士がそれに介在していたことも報道されてい

る。

自民党政治にたいする国民の怒りと不信は臨時国会が終っても、皇太子妃内定の大キャンペーンがおこなわれても、内閣を改造してもおさまらうとはしていない。世論は健全であり、リクルート、消費税のときの比ではない。地方議会の決議は全国で二千数百となり、京都でも園部町を除く全自治体が決議した。宮沢内閣の支持率は十二%（毎日）、改選後も二〇%前後でまさに「死に体」である。

最近の情勢の特徴は、国民が、自民党政治への怒りだけでなく、その自民党となれあっている反共野党にも批判の目をむけていること、そして、「カヤの外」、「犬の遠ぼえ」とやゆされてきた日本共产党の正論＝佐川事件の真相解明、企業・団体献金禁止、国対・密室政治打破、宮沢内閣打倒などの先駆的主張が、国民の共感をえて多数の声となりつつあることである。

同時に、まきかえしや逆流もつまっている。国対・密室政治の矛盾があらわになりつつあるが、大事な局面になるとそれが「修復」されて反国民的逆流をつくりだす——この点を絶対に過小評価してはならないと思う。

自民党の悪政と国民との矛盾はあらゆる面で極に達し、新しい日本社会発展の客觀情勢は成熟しているが、変革のための主体的条件は未成熟である。国政における力関係の抜本的変革がいまほど急がれているときはない。総選挙での

昨年は自衛隊の海外派兵、参議院の選挙、佐川問題など激動の一 年であったが、そのすべては今年に引つがれた問題で、明けましておめでとうと言うには、まだ早いようだ。ことに新春早々、マスコミの政界再編論や皇太子の結婚報道の、憲法の主権在民とはかけ離れた異常さは目に余る。

それにしても、民主運動を語る会発足と、これを共にした「燎原」が号を重ねて今日を迎え、また会員の多くの方々が、戦前、戦中、戦後の中で、多くの友を失つて來たにもかかわらず、今日まで暮しをまもり、生き抜いてこられたことは喜ばしいことである。昨年は経済も社会も生活も激動し、そのすべての頂点に立つ政治がゆれるのも当然のことである。活動から激変にふみ出す重要な年と

こさん、寺前さんの勝利のために全力を尽くし、日本共産党的躍進によって反共ブロック打破、革新多数派の結集をかちとらなければならぬと、新年にあたってかたく決意しているところである。

稻田達夫

なるであろう。

何しろ戦後も五十年、お金中心、大企業中心、アメリカ中心の施策が進められるなかで、大資本が異常に成長してきたが、一方では企業より暮し、開発より環境、地球中心という力が拡がって来ている。しかし資本の働きはもともと利潤を追及するためには手段を選ばない性質のもので、リクルートや佐川などいわゆる怪しげな政商が生れてくるのも当然の話。しかもそれを規制する自らの力が財界にも政界にも官界にもなくなるどころか、逆にこれを助長して來たのだから、佐川問題が表面化して來たのも無理からぬ話ではない。

京都に生れ、京都に育ち、京都で暮してきた私にとって、気になるのは佐川という企業の始まりが、京都であることである。佐川

一族は京都に住み、新党の細川家の所有する京都市左京区南禅寺のいわゆる細川別邸が佐川一族の住いであること、佐川の会社も全国の佐川をまとめる会社も京都、しかも四年前の京都市長選挙では佐川マネーが動いて、その後告示直前、立候補予定者が不出馬、現京都市長を支援する結果となつたことなど、常に京都が影の舞台になって来ていたものである。

佐川という企業は、頭と腕に支えられ、一〇〇年を超えてきた京都の老舗の商法からすれば、全くの異端者であり、舞台が政商のむらがる東京に移ったのも当然のなりゆきであろう。佐川といふ企業が全国に拡がり始めた頃、京都では暴力団とのつながり、運輸事業という政府の許認可事業との関係で運輸省との関係、その背景にある政治家とのつながりは、早くからささやかれていた。そのことが運輸事業という極めて公共性の高い環境の中で異常

今年の課題といわれるが、これは一体のものである。資本の集中集積が戦後半世紀に及び、政治のみならず経済も社会も生活も文化も教育も芸術もすべての分野で、変革が求められている世紀のわかれみちである。権力、金力、暴力、に屈することなく佐川問題を解明し、政官財の癒着を断ち切ることが先決。主権在民、国民こそ主人公の年とすることに、過去を現在に生かし未来を開くために結集された、会員の皆さんの豊かな経験が、生かされることを願つてやまない。



である。年の始めにあたり、国会では佐川問題の真相究明は徹底してやってもらいたい。国会は裁判所とは異なるので法律の限界に

佐川事件に年頭の決意を!!

岩井忠熊

政権党の汚職・腐敗は今にはじまつたことではない。あの造船汚職から三九年、それに先だつ昭和電工事件からかぞえると四五年たつた。以後、思い出すのもわざらわしいほどの汚職の連続。ここ数年はテンポが早くなつて、リクルート・共和・佐川とつづく。

よく指摘されるように佐川事件の特色は、竹下内閣の成立に暴力団が関わっていることが発覚したことである。然し、それとても考えてみれば、別に新しいことではない。戦後、自由党の発足に際して創立資金を提供したのが児玉謙志夫だった。児玉は戦前右翼のテロリスト、戦時中は海軍特務機関で特殊物資の調達にあたり、アヘンを取引してばく大な財をなしたといわれる。この時に暴力組織を駆使し、それからやくざと結びついたらしい。すべて物事の本質はその成立過程にきざしているといふ通説に従えば、現在日本の政権党である自由民主党は、徹頭徹尾、汚い金と暴力組織と軍国主義をその本性としているということ

になる。

然しいつでも政権党をめぐる汚い部分は、国民大衆の目にさらされることができない。たまたまそれが暴露されるのは、日本の司法権の及ばない外国の訴訟事件、国内の民事事件、地方自治体の小汚職事件、背任事件等に証拠が現われた場合に限る。表沙汰になったのは、ほんの氷山の一角であるにすぎない。然し事態の真相が全国民の目に明らかになった時に、なお国民が沈黙していると期待するならば、それは政権党の妄想である。

ソ連・東欧諸国の解体は、決して単純に社会主義の崩壊と見るべきではない。アメリカにおけるブッシュ共和党政権からクリントン大統領への移行がただちに資金をながしていく。一九六九年に、夫婦一人で始めたという小さな運送会社が、わずかな年月の間に、半官半民の大企業「日本通運」につぶ运输業界第二位の大企業に成長した。この急成長の秘密は、労働者への過酷なまでのノルマ、労働者の睡眠時間を削っての稼ぎ高に応じた、高額な歩合給与だけではなかつたようだ。違法操業による闇資金の捻出をばかり、二〇〇〇億円ともいわれる政

であることを信じて疑わない。佐川事件をめぐる国民の怒りにその希望を見出して、年頭の決意を新たにしよう。

佐川事件に思うこと

岡本康

(1) 一九九二年に日本をゆるがした大事件と問われれば、佐川急便事件といってよい。その「佐川急便」は京都に馴染の深い会社のようだ。国道9号線ぞいの京都市の外れに、本社ビルがあり、市役所の裏には、佐川ビルがたち佐川社長も京都に住んでいるようだ。

風雅な高級住宅街のある南禅寺の近くに「日本新党」の党首細川の別邸が、佐川急便の迎賓館にされているという。一九六九年に、夫婦二人で始めたという小さな運送会社が、わずかな年月の間に、半官半民の大企業「日本通運」につぶ运输業界第二位の大企業に成長した。この急成長の秘密は、労働者への過酷なまでのノルマ、労働者の睡眠時間を削っての稼ぎ高に応じた、高額な歩合給与だけではなかつたようだ。違法操業による闇資金の捻出をばかり、二〇〇〇億円ともいわれる政

金によって成り立っていたことが、最近の報道で良くわかるようになった。

(2) 佐川急便という会社は、政治家や高級官僚を金で操る企業だというだけでなく、暗黒街にうごめく暴力団や、右翼にも金を垂れながしていた企業だったようだ。社長の佐川清は新潟の金子知事を買収していただけなく、三年前の京都市長選挙にも田辺陣営にも金をながしていた。また当時立候補を表明していた左京区の医師にも一億円の資金を渡して、立候補をとりやめさせていたというのだから驚く。佐川急便腐敗事件の全貌はまだ明るみにはでていないが、佐川に資金を提供していた金融機関の責任も大きいといわねばなるまい。

(3) ドン金丸の五億円買収事件と、竹下議員の暴力団支援による総理就任の事実は、国民を憤激さ



せ世界中を驚かした。腐敗の極の自民党政治に加えて、日本の検察のだらしなさも、驚くばかりだ。法の執行者である検察が、佐川献金の行方を追及せず真相を闇の中に閉じ込めようとしていることに、主権者である国民は本當におこっている。その証明のように、地方議会の過半数が、「佐川事件の国会での幕引は許さず、竹下議員の辞職を求める」決議を連日行っている。この地方議会の動向は、国民の声として定着しようとしている。

(5) 侵略戦争に反省の無い、自ら社会から孤立するだろう。従軍慰安婦の賠償も、二〇〇〇万人に及ぶアジア諸国民の殺戮についての補償も、天皇のメッセージ一つで、ゴマかす魂胆かもしれないが、そこは問屋は下ろすまい。侵略戦争に反省の無い手合いは、歴史の審判から、とても抜け出すことはできないだろう。「佐川急便」は、佐川財団を通じ、飛脚便のマーク入り、中古トラックを中国に無料で提供しているようだ。これは右翼の笹川が、競輪や競艇のバクチのあがりで中国の医師たちに、わずかな奨学金で、恩を売っているにの良く似ている。治安維持法の犠牲者も、職を失った人たちをあげれば、数十万人にも達する。侵略戦争に反対し、命をして闘つた人たちに、国は補償の額の恩給をもって報いている。酷寒のシベリヤで抑留され重労働させられた兵士たちの苦労に銀盃一つでごまかすのだからひどいものだ。

怒りは燎原の火のごとく

奥村和郎

81 ロックード・リクルート
疑獄など、ときの最高権力者田中角栄・中曾根康弘両氏などは、いわば刑事犯罪者として当然収監されるべきであるにもかかわらず、権力機構の上にいまだに隠然とした勢力を保ち、中曾根巨悪にいたっては院政よろしく次期総裁を指名して、暴力団を産婆役とする前

ころが共産党が衆議院で一六名に後退したりクルート疑獄のころには、テレビは静止画像となり、「泰山鳴動して鼠一匹」の始末となつた。さらに共和疑獄などが続き、「けものみち」を政界の役者たちが歩む。「政治は力なり」を肝に銘じたものだ。

大いに貢献することができた。ところが共産党が衆議院で一六名に後退したりクルート疑獄のころには、テレビは静止画像となり、「泰山鳴動して鼠一匹」の始末となつた。さらに共和疑獄などが続

代未聞の竹下内閣を誕生させた。七二年一二月の総選挙で、日本共産党が四〇名に大躍進した結果、従来の宴会政治は影をひそめ、ロッキード疑惑にかかる者の証人喚問を実現し、疑惑解明に

82 そこへ佐川急便疑惑が表面化する。とき、まさにリ疑惑たけなわ。一方で「襟を正す」など一枚舌をたくみに操りながら、他方では二〇億三〇億で右翼暴力団と政治取引をしていたという「検事

握り込んだ悪徳政治、重税を課し、その財源で、戦争犠牲者や、治安維持法犠牲者に、補償することは簡単に、できるのではないか。アメリカでも戦争中、太平洋沿岸のロスアンジェルスやサンフランシスコに住んでいた日系人を、敵性外人として扱い、その財産を没収し、内陸の砂漠にちかい収容所に問答無用で収容した。レーガン大統領の時代、この措置は、アメリカ憲法に反したこととし

て、アメリカ政府は、非を認め、日系人たちに、賠償した。ODA予算は、日本大企業の利潤保証の土壌作りに、利用されているが、むしろ侵略戦争のための反省費として使用されるべきだろう。一九九三年は、21世紀の日本を占う年として総選挙がある。その前後に京都市長選挙も鬪われる。歴史に貢献するよう私も奮闘したい。

(治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟京都本部 副会長)

質と疑惑の深さを語るに十分ではないか。この事実を今や国民は誰一人疑う者なく、金丸氏が「五億円もって二〇万円」の略式起訴が発表されるに及んで、その怒りは日本列島を駆けめぐり頂点に達する。

で不発に終つた。しかし「暴力団との関係は、永遠の謎」と茶化す竹下証言は、まさに「語るに落ちた」と言うべきだろう。

S4 金丸氏の証人喚問にあたり、政権党が動搖隠し切れないこの重要段階で、田辺社会党委員長の「私情として忍びないが……」との発言は、同党内部にも疑惑を呼び、いわゆる社公民「野党」戦線に深刻な亀裂を生み、ついに今回委員長辞職に追い込まれることになった。昨年の参議院選挙で、「企業・団体からの政治献金の禁止」を公約しておきながら、先の臨時国会では自民に追随して国民を裏切った同党の責任は極めて重大である。

さらに「雨後の筈」のよう、日先を変え、品を変え、新しい装いの下に新党売り込みがマスコミを賑しているが、かつての「新自由クラブ」が自民党を補完するみじめな末路ぶりを見れば、その小細工ぶりは「一番煎じもいいところではないか。

S5 「窮鼠猫をかむ」のたとえにある「とく」「竹下派」という最大の支持母体を失った宮沢首相が、何をするか分かったものではな

單純小選挙区制をはじめ、

佐川問題の解明と政治革新を

龜田得治

(一) 佐川問題の
一二五 よ

川急便問題を徹底解明せ
臨時国会は終ったが、佐
解明は全く不十分であ
新聞社が十一月二十日、
に行つた世論調査によつ
疑惑が解明された」とす
か二%に過ぎず、九四%
の額は七百億から一千億とも言わ
れる。国会で取り上げられた金子
前新潟県知事や、金丸自民党前副
総理らに渡つた金は、全体のほん
の一部に過ぎない。国会は引き
き佐川問題を解明し、国民の前に
明らかにせねばならない。

(二) 竹下総理誕生と右翼暴力団

消費税の10%への引き上げ、PKO法をめぐる解釈改憲から明治憲への陰謀、コメの輸入自由化など、一党独裁の野望を狙う彼らのデマゴギーを甘く見ることはできない。その中身は反共・反社会主義であり、日本共産党攻撃であることは火を見るよりも明らかであろう。

佐川問題の解説と

(一) 佐川急便問題を徹底解明せよ

一二五臨時国会は終ったが、佐川問題の解明は全く不十分である。朝日新聞社が十二月二十日、二十一日に行つた世論調査によつても、「疑惑が解明された」とする者は僅か2%に過ぎず、九四%の人が解明されていないと言つてゐる。国会が終了後も、地方議会の徹底解明を求める意見書や、決議は増え続け、十二月二十五日現在で二三九二議会になった。これは全国三三〇六議会の過半数をはるかに上廻つてゐる。

佐川急便が、短い期間に急成長した背景には、莫大な資金を不正に使つた結果となる。そ

こうした彼等の野望をくじいてこそ、日本の夜明を迎えることができる。深い闇ほど夜明が待たれるものだ。「明けない夜はない」。

(一九九三・一・九)

辺前社長を通じて稲川会の石井会長を動かしたのである。その時、右翼より出された条件が「竹下が田中角栄宅に挨拶に行くこと」であった。

国会の証人として出頭した竹下は、それまで右翼の関与を知ったのは、竹下が総理になってからであると主張していた。しかし一九八七年十月五日の東京プリンスホテルにおける竹下・渡辺・金丸・小沢らの打合わせ会について、正森成二議員が追及すると、竹下は「この問題（田中への挨拶）が、いわゆる街宣活動中止につながっているんじゃないか」という印象を持ったことは事実でございます」と答えた。実質的自白である。

(三) けしからん宮沢総理の態度
佐川急便事件が起きてから宮沢総理の態度は、全く国民の気持ちを逆撫であるものである。彼は金丸が副総理辞任を申し出るや止めないように勧めた。その後国民党が金丸の国会議員辞任を求めた。又国会において関係者の証人喚問要求が各野党から出され、自民党がそれに反対し、証人の数を減らすよう努力したが、宮沢は終始、証人喚問に努力しようとした。

かへし、金丸が東京佐川急便の使途について明らかにしないのに對しても、何一つ積極的に解明させようとしなかった。国民が怒つて検察庁に沢山の告訴を出すと、取調中を理由に一切語ろうとしない。こんな国民を無視する総理は、即刻止めもらわねばならない。

(四) 企業・団体献金の即時禁止を

そして佐川急便問題と続く。企業が政治を金で操り、国の政治を曲げている。あげくの果ては暴力団まで関与してくる。こんな日本の政治を即刻止めねばならない。それには企業や団体の献金を禁止することである。

ところが臨時国会では、企業献金を更に促進する法案が、政治改革の名で成立した。全くあきれ果てたものである。共産党は徹底して反対した。しかし社公民等の野党は、共産党を排除し、自民党と密室協議を行い法案を通してきた。野党は参議院では多数である。どうしてこんなことになるのか。

日本の政治は正に混こんどしている。自社公民側からもいろいろ

佐川事件に想う ——一党独裁の政治改革——

木村万平

政治改革の構想が出され、どれ一つとして、これならと言ふものがない。草の根から革新の声を高め、平和・民主主義・暮らしを守るために、革新統一の運動をすすめることが、唯一の道である。

(一九九一・一一・二六記)

関西テレビの特別企画「命のビザ」を見た。第二次大戦中にリトニア領事代理の杉原千畝が数千人のユダヤ人を救うために日本政府の命に反してビザを発行し、国外退去をする列車の中まで書き続いた感動の記録である。彼は戦後帰国し、外務省から抗命を理由に解雇を受けた。イスラエルの人々は建国後彼を探し続け、国をあげて彼の家族を遇した。あの忌まわしい出来事だけが累積する十五年戦争の中で、日本人の誇りうる数少ない快挙であった。日本政府がひっそりと彼の名誉回復をしたのは彼の死後一九九一年のことであつた。イスラエル政府が杉原氏を表彰し、杉原未亡人が著書「六千人の命のビザ」を世に出すことがなければ、日本政府は黙殺し続けたことであろう。

これは、戦争責任や植民地支配・ための革新統一の運動をすすめるための革新的統一の運動をすすめることが、唯一の道である。

慰安婦問題等の責任について、國からの厳しい追及の火の手が上がらぬ限り、おざなりの反省の言葉さえ口にしない体质と表裏のものであり、自民党政府の本質だといえるだろう。金権大国にとってはヒューマニズムは邪魔物以外の何者でもないのである。

ロッキード・リクルート・佐川

……そうした金権腐敗の自民党政の体質の一部が暴露される事件が起ころたびに、自民党政は一面動搖しつつ、一面で必ずポイントを稼いできた。彼等は転んでもただでは起きない。彼等はそうした場合、常に「政治改革」という言葉を用いて単純小選挙区制への地ならしを着実に進めてきた。佐藤元法相は佐川問題について地元紙で「ロックード以降こうしたことが起る原因の主たるものは金のかかる選挙制度であり、中選挙区制はどう

しても改めなければなりません」と言い、企業・団体献金は「当然と居直る自民党幹部さえ出はじめている。マスコミは常に自民党的腐敗を既成政党一般の腐敗という印象にすりかえ、国民の政治不信をあおり、「政治改革」こそキメ手とする世論操作に余念がない。国民の多くはマスコミによる批判と比例して批判するが、同時に国民のかなりの部分がマスコミの唱える「政治改革」(それはだんだん小選挙区制に傾きつつある)という言葉にも乗ってきたことも見逃せない。

疑獄事件は独占資本が国家機構を買収し、従属させるという国家独占資本主義の形態の必然的帰結であるが、続発する疑獄事件が各省大臣や有力国會議員の買収であったのに対して、ロッキード・リクルートなどの大疑獄事件は「総理の犯罪」であった点にその特異性がある。そして今回の「佐川疑獄」は独占資本の買収と暴力団の力によって総理大臣が作られたという点で、疑獄事件の中でも特異な事件といえ、国家独占資本主義の腐敗の頂点であると言える。まだ実態は解明されていないが、それだけに買収による反共野党の一部幹部の抱き込み工作は熾烈であ

ったと考えてよいであろう。

佐川事件が問題の質において超大型疑獄であることは逆に自民党が「政治改革」を大上段に振かざして、一挙に単純小選挙区制を強行する機会ともなっていることは見逃せない。

四割の得票で九割の議席を自民党が獲得した暁には、独占資本の国家機関買収は大手を振って闊歩するに違いない。まさに独占資本による国家機関の従属の完成と言えるだろう。中曾根民活にはじまった民活路線は、都市改造によって都市を大企業の支配下に置き、リゾート法によって農山村を大企業の支配に委ねようとした。自民党独裁政権の下では、都市も農山村も、自然人も独占資本の徹底的な支配收奪の対象になるだろう。今日ほど国民が主人公、住民が主人公の國や地方を作るために

国民党にいわせると、こういふ「尊い社会」の幸福は国民の幸福にもつながるという。二重橋から兎小屋までどこでつながっているのか信じられない話である。

この馬鹿げた信じられぬ話が変態的ブームを呼ぶのは、やはり国民のかなりの層のムード的表現か、と思うと笑いどころか恐ろしくなってくる。長崎市長の遭難とか某陸佐のクーデター論なども、こうした中から発生するからである。

おまけに今一つの当面の大きな作用は、最大の悪政たる金権腐敗の佐川事件を忘れさせることである。この二つは本来何の関係もないのだが、画面と活字の單なる物理的空間的操作で、人の心まで置きかえられるとすれば情けない話である。

この分だと政治と 選挙区制

佐川事件と「若様」の婚約を論ず

清水裕

のことだと勘違いして、反って自民党が有利になるようナペテンに、掛かってしまうかも知れない。「いづれ総選挙があつても、忘れやすい国民は何事もなかつたよう、自民党を選ぶことだらう」(朝日、「声欄」という心配がないわけではない。事実、安保闘争、ロッキード、消費税後の選挙でも、さしたる大変化は起きなかつた。だがこの事は、さじを投げたらよいという事ではなく、日本における頑強な保守思想、権威に弱い事大主義などは覚悟の上で、継続的な行動を続けなければならぬ、という事を意味している。

その昔、「安保」のあとで民主陣営から去つていった人々は恐らく状況を甘く見すぎたのであろう。「長期かつ困難な闘い」という分析は四十年ほども前になされたはずだが、現在もその条件は変化していないし、今後も当分続くだろう。思えらく、——徳川幕府三百

年、その間何百という百姓一揆があつたときくが、汗と脂、時には多くの血を滴らせながら、慘苦の



道を辿った農民たちと比べれば、そして又近くは平和のために身命を捧げた、戦前の少なからぬ犠牲者たちのことを思えば、現在われわれのやっている仕事は口にする

ものないことながら、鼻歌まじりのようなものである。
その歌は何か。曰く「明けない夜はない」と。

(一九九三・一・一〇)

政治の大改革が必要

田畠 忍

佐川事件等々、自民党政治の墮落は呆れるばかりです。その原因は昭和二十六年に吉田内閣が日本国憲法を蹂躪して、日米安保軍事同盟条約を締結したことあります。それ以降、日本の政治は、税制改悪等々、憲法に違反して、どんどん悪くなっています。

従って、日本の政治を憲法どうりに良くするためには、この「日米軍事同盟条約」を、「日米友好

親善世界平和展開のための条約」に改定することが必要です。そのために必要不可欠な前提条件は、日本が「非武装永世中立の国会宣言」をすることです。それ可能にする政党は革新政党です。革新政党の皆さんにがんばっていただきたいのです。「平和・人権・福祉徹底」のために、ともにがんばりましょう。

九月二十二日東京地方裁判所は、佐川東京社長だった渡辺広康に対する特別背任罪での公判を行なった。検察が冒頭陳述で「政界と暴力団との癒着」が、この佐川事件の重要な背景であり、動機であることを述べている。九月二十八日には自民党副総裁であった金丸が、五億円を受取っていた問題について、本人は六十数人の政治家に配ったことを言明しているにもかかわらず、一切とり調べず、

新年おめでとうございます。今年もどうぞよろしく。

一九九二年十月三十日から臨時国会が招集された。三つの議題が問題となつた。(1)政治改革(2)不況(3)自衛隊海外派兵、どの一つ

寺前 いわお

佐川事件に想う

一九九二年臨時国会を通じて

年」といい、日本新的会などが次々と生れて来ている。とくに佐川問題に対する国民の怒りは空前で、自治体決議が二五〇五、全体の七六・六%にも達している。全労連が十一月に街頭投票を二十万人に実施したところ、九四%が賛成だと回答している。この世論に答える真の政治改革こそ、今年の国民に対する政治家・政党の務めといわなければなりません。政治は国民のためにあります。革新政党は革新政党です。革新政党の皆さんにがんばっていただきたいのです。「平和・人権・福祉徹底」のために、ともにがんばりましょう。

田辺では総選挙は闘えない」と書記長、委員長に浮上となつた。金丸との関係から社会党党内でも「田辺では総選挙は闘えない」という声が生れていた。金丸と言えば防衛廳長官のときに米軍への思いやり予算を作った人物。今日その思いやり予算は二千二百八十六億円、中小企業対策予算一千九百五十一億と比較すると驚くべきことにしてしまった男である。北朝鮮に対し屈服的外交を進めたり、首都移転で又もや地価高騰の課題を拡げるなど自民党の中でも、とかくの批判をうけて来た人物だけに、その男の子分のようなことをする田辺社会党委員長では、社会党員が居たたまれないのは当然だろう。ところが後に出て来た山花委員長も困ったものだ。去年一年間私も各党の書記長・幹事長・国対委員長で構成する政治改革協議会でおつきあいして來たが、「金で政治を買うことが最大の問題

題」、「企業団体献金の禁止を緊急第一議題にしよう」と私が言うと、彼は必ず「自民党の同意が得られないことを言うべきではない」と、日本共産党を攻撃し、自民・公明・民社の賛意を受けるという調子。ところがテレビに出る「企業・団体献金こそ最大の問題」と平氣で言う。いわばペテン師だ。「重人格者だ。しかも十一月十九日には、わが党を除く自・社・公・民書記長・幹事長会談で「 β の証人喚問」で合意、幕引きに手を貸すことをやつてい。ロッキーのとき衆議院で三十二人、参議院で十五人の証人喚問をやつたことを考へると、此の男のとつた態度は驚くべきことだ。更につけ加えるならば、此の臨時国会で不況の補正予算についても、銀行がバブルがはじけて困っているとして、地方自治体から一兆円出させ、国も二千四百八十六億円捻出する予算が通っているが、このお金づくりのために、生活保護費を四百三十三億円、私学助成費を二十四億円も削ることに賛成している仕末である。

政治は国民のためにあるのです。自民党となれあって、どうして、佐川の究明も、企業・団体獻

金禁止の国民の願いも、実現できないことをあらためて教えた臨時国会でした。

「変革」とは自民党と闘うかどうかが問われていること。国民の前にあらためて明らかにせねばと考へる次第です。

* * *

私は戦前山宣が「われ一人孤懁を守る。だがさびしくない。私の背後には大衆がいるから」と毅然と闘った政治家を想起するとき、

今日の国民を裏切る社会党の、「又もか」と言っていたらくに残念でならない。反共軍団は日本共产党は「独善と偏見の党」だとか「ふるくさい党」だとか「共産党は自分の利益だけで文句いいたら除名だ」と言う攻撃をしているが、「民族は平等」、「政治は国民のためにある」という歴史の推進のために、七十年来いつでもどこでも革新を貫き、霸権主義と闘つて来た歴史は必ず花開くであろう。「政治を喰いものにする」ものには前進がないことを示すであろう。その一頁を確実に毎日毎日つくつていく確固とした足ど取りで、今年も闘っていきたいと決意する次第です。

(衆議院議員)

国 会 報 告

西 山 と き 子

みなさん、お元気でいらっしゃいますか。

私は、国会に送っていただいた早や五カ月、昨年八月七日初登院し議場に座った時は、二十六万四千六人のみなさんの熱いまなざしを感じ、責任の重さを痛感いたしました。

国会では厚生委員会と土地問題特別委員会。日本ユネスコ国内委員にもなりました。そして昨年の臨時国会では、ゴミ問題で初質問をしました。又、学童保育について質問主意書を提出しました。さらには「佐川事件の真相究明」と「関係政治家の政治責任追及」のため

一九九三年こそ総選挙、京都市長選挙の勝利で革新の上げ潮の年にしたいと思います。

府民の皆さんとともに要求実現のため、いのち輝かせてがんばります。

(参議院議員)

に全力をつくしました。

国会にきてあらためて思うことは、京都の革新的伝統の力強さですが、寺前いわお国対委員長、こくた恵二府国民運動部長とともに一層の前進をはかりたいと思います。

特別委員会。日本ユネスコ国内委員にもなりました。そして昨年の臨時国会では、ゴミ問題で初質問をしました。又、学童保育について質問主意書を提出しました。さらには「佐川事件の真相究明」と「関係政治家の政治責任追及」のため

藤 谷 俊 雄

日本政治の現状について意見を求める、言いたいことは山々あります。「政治を喰いものにする」ものには前進がないことを示すであろう。その一頁を確実に毎日毎日つくついく確固とした足ど取りで、今年も闘っていきたいと決意する次第です。

(衆議院議員)



高まっている世論の声を、全国をおおう大きなかたまりにまとめ結集することです。そしてそのためには大同小異、ちいさなちがいにとらわれず、大きく団結することはだと思います。そのためには理論的にも統一することが大切です。それは今私は簡単に言えなけれど、みんなが日本の国民の立場に立って、国の運命について考え、国民同志が信頼して団結することが切に望まれていると思います。そのために公然とした大討論が起ることが望ましいと思います。今黙つて現実を見つめている多くの人々も、意見がないのではなく、驚きあきれそして考えていります。それらの人びとを味方として手をつなぐことが今大切なかぎになつていると考えます。

小生老残の身でこのようなことしか申しあげられません。おゆるし下さい。

(一九九二・一二・三〇)

私は昨年の夏、夫の急死という事態に直面しました。「女性の自立」だの「自然を守れ」の住民運動だのといっぱしの活動家のつむりでしたが、何もかも夫の助けを得た上でのことでしたから突然に夫を失つて茫然となり、「もう世界なんかどうでもいいや」という心境で、正直な所「佐川事件」も傍観していました。仲間の皆さんが街頭で佐川事件を告発する活動をしていても参加しようという意欲もわからず、まことに怠慢な日をおくりました。テレビを見ても集中できず、新聞を広げもせず

「佐川事件」について書くように」と編集者からお手紙を頂いても二十万円のこととか不起訴になつたことなど通りいっどんのことしか知りません。そのかわりでもないのでですが、せめて夫の残した著作でも読もうと努力をしていましたが、難しいものもあって「何故、夫が生きているときに努力をしなかったのだろう」と痛恨の思いで毎日を過ごしています。

夫は近代史を専門に勉強してき

佐川事件に思う

馬原 郁

ところで数年前、減反に承服しないで稻作をした農民の目前で、行政が青々と育った稻を刈り取る場面が放映されたことがあります。その農民は「いつの時代も権力はこういうことをする」と言つて苦々しく感想を述べています。

これまでの数々の汚職が繰り返されてきて国会での証人喚問が並んでいます。その中には終戦直後に出版されたものや、大手新聞社の社会部が出版したものもあります。明治維新以来、支配層が如

何に利益をむさぼってきたか、そしてその後も絶えず起る大小の汚職事件について、どの本も怒りの告発をしています。「本は並んでいるだけ」ぐらいにしか思わない私ですが、今度それらの本を開いてみると夫が色鉛筆でうすく傍線をつけていて涙をそります。それにしても、新聞社発行のものを見て「どこかの長男さんの結婚に際して、その報道に血道をあげている今の新聞とはえらい違いやなあ」と思います。わずかな年金で最低の生活を余儀なくされ、頼みの生命保険や退職金の利息からもとられる税金が湯水の如く使われるのが腹立たしいこともこの

八六号は12ページ建てになりました。連載の「農民運動散歩記」(三)は次号にまわします。会費納入の振替用紙を同封させていただきました。よろしくお願いします。

(寡婦)

佐川問題に想う

—慣習を改めるところから—

蓮佛亨字

人間の社会が、これほどまでに汚れること、悪がまかりとおる。六十二年の人生の中で初めて出くわし知った、大規模で醜惡な出来事である。

私も建築界を歩いて来て四年、様々な裏金取引、リベートなど自分としての実体験は無いが、やり方や仕掛け、筋道や仕組の話は、聞いて来たし概要は知つていて。しかし、こんな酷いのは初めてである。

戦犯解除、公職復帰、陸上自衛隊の創設、自民党に象徴される保守勢力の台頭は、戦前まで続いた、人と人の関係、汚い関係、下は上にへつらう、上意下達の関係を継続し補強さえしている。覇権主義・官僚主義・中央集権は、それを典型的な形・内容で現わしている。

国民主権は横におしやり、戦後の民主主義をゆがめ、善惡の見定めをあいまいにし、出来なくしてしまった。悪い方のならわしは戦前、いや封建制以前からの系統的

な集積であり、戦後に総清算をなしていない、歴史の遺物、悪い遺物である。

新聞の何処かにその事例は毎日載っている。執筆した日、朝日新聞(一月十四日朝刊)は、「陳情難航」と菓子折り」と題して兵庫県百貨店協会、神戸市議会十二人宅へ社会評論家の俵萌子さんは「佐川事件と本質は同じ」と話している。神戸市議会に「商品切手発行税」の廃止を陳情している県百貨店協会の事務長、そこそく・大丸・三越百貨店の部長、課長の計四名が継続審議としている総務財政委員会の委員十二名全員の自宅に菓子折りをもって年始周りしていたことが一人の委員によつて明らかにされたのである。それは共産党の委員である。日常茶飯時に行われる。お願いするとき、何か物を手に下げて挨拶に行く。なにげなしに受け取る。国民の中にしみこみ、身についてしまってい

る。年は、佐川問題を澄んだ目で見ることは出来ない。「ああ、や

つたか」「又やったか」「目立たぬよう、上手にやれないものか」などと言うようになってしまった。

毎日の生活、目をとぎすまして新聞を読む。うち一紙は赤旗を読む。頭にある問題意識は何時でも新鮮であり、どんな事柄、難解複雑な出来事であつても、しっかりと対処の仕方、行動の起こし方を心得ている。心得ているというよりは、すぐ行動の内容を発想しうる。人間はそんな日常の様態になつていなければならぬと思ふ。

建築設計事務所界の中元、歳暮の贈答の慣わしは常套化している。主宰する事務所では受け付けて積んでおき、アルバイトも含む全所員で山分けする。一つひとつ断わるといつても送り付け、届けてくるのであるから、返品は不可能である。より多くの人の面前にさらし、公平に分けるという手段を講じて、贈答品を受け取るところから起ころ、不平等、内密の取引・利益誘導、合議などへの悪弊を除去しようと努めている。

中元、歳暮以外にも、業者、材料業者と隠れたところとの交際をさせてはいけない。ダヘとつきあ

い、相手と対等平等に費用を出し合い、協議・付合いの内容を秘匿しない。公表し報告する。設計監理業務の場合、仕事が営業であると所員に教えている。ほとんど人間関係(ヒューマンリレイション)で成りたつ仕事であるから、人付き合いをキツチリすることが、高い技術を行使するより以上に大切である。委託があつて企画・計画・設計・監理へとすすむが、はじめから逢わないで業務のすすんでいたある施主が、所員の仕事ぶりを見て、私に逢いたいと、竣工式に招請されたことがある。人間関係をキツチリして良い仕事をすれば、建築家は冥利につきの仕事である。

自慢したくて記述したのではなく、日常不斷にハツラツとして、新鮮な気持ちで生活していないと、何時悪だくみに組み込まれか分からぬ世相、世の中である。激しい言い方をすれば、毎日たたかつていなければ道義は守れない世相である。うやむやのうちに佐川問題を許してしまいそうな現在であるから、自らの実体験を述べたのである。以上。

(建築家)